

特定非営利活動法人 フリースペースたまりば (認定NPO法人)
2021年度事業報告書
(2021年4月1日～2022年3月31日)

1. 事業の成果

今年度はフリースペースたまりば創設 30 周年の年にあたるので、記念シンポジウムを開催し、これに合わせて、記念誌の発行、記念グッズ (オリジナルTシャツなど) の作成・販売も行った。テーマは「誰ひとり取り残さない～『弱さ』でつながる社会へ」。川崎市男女共同参画センター「すくらむ21」を会場に、3名のパネラー (熊谷晋一郎氏・向谷地生良氏・澤田智洋氏) を迎え、理事長西野をコーディネーターに、ハイブリッドで語り合った。当日会場参加 150 名・オンライン参加 150 名・見逃し配信視聴者 150 名。成果や効率、合理性の追求が加速し、非効率な『弱いもの』を排除する社会の傾向が強まる中、頭ではわかっているように思っているように動けない、弱さを抱えた人たちに寄り添い、私たち法人が掲げる「生きている。ただそれだけで祝福される」社会を実現させるために必要なことは何なのか、どこに向かっていくべきかの指針を探る会となった。また会の後半では、2022年の10月に施行される労働者協同組合法にもふれ、一般就労になかなかつくことが困難な若者たちの生き方・就労の在り方も模索した。また 30 周年記念に合わせて寄付も募り、その返礼品として藍染めのエコバックとケヤキでつくった手づくりのアクセサリーの送付も行なった。

また川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」は、その対象を 39 歳までに拡大、「だいJOB センター (川崎市生活自立・仕事相談センター)」もしくは「川崎市ひきこもり地域支援センター」で相談したケースであれば、生活保護受給者でなくても「ブリュッケ」の対象として関わることになった。9月にはリニューアルの設計段階から関与した新しい物件に移転。活動スペースは広くなり、センター長に「ブリュッケ」開設当初から関わっていた当法人理事の佐藤有樹が就任。新たにスタッフも増え、福祉事務所からのケース相談の敷居を低くし、ケースワーカーを支えつつ連絡・連携強化を図ったところ、相談数・登録者・通所者の人数も大幅に増加した。日常的に昼食をともに食べる若者たちの数もかなり増加し、活動の幅も広がった。

さらにコロナ禍の中で開設した「コミュニティスペースえんくる」の利用者は増加し、フードパントリーで提供できる食料品の安定的確保が課題になりつつある。また多世代型のえんくる食堂に加え、誰もが気軽に立ち寄れる場所として「えんくる CAFE」を開店した。新たに子どもの SOS を発見しやすくする目的で、放課後の小学生を主な対象とした「こども☆きっさ」も開設。ジュース 1 杯・お菓子 1 個無料の取り組みを開始したところ、近隣の子どものたちの利用は増えつつある。若者や親たちが集い出会うの広がる「チャレンジ・ラボ」もスタートした。フードパントリーやえんくる食堂などの利用者の中から持ち込まれる困難な相談ケースへの対応も増加傾向にあり、地域の SOS もたくさん聴こえてきた。「こんなことで困っているよ」「どうしていいか不安だよ」、そんな声に耳を傾け、「まちの案内人」として専門職スタッフが必要な公的制度・支援や地域のリソースを紹介し、時には訪問や同行を行う相談事業も必要になり、新たに相談しやすい体制の整備が求められている。

また、夢パーク・フリースペースえんで日常を過ごし、遊び、やってみたいことに挑戦し、暮らしを通して学び育つ子どもたちの成長を 3 年がかかりで追った重江良樹監督の映画がついに完成し、試写会が開かれる段階になっている。映画タイトルは『ゆめパのじかん』に決定。音楽はたまりば初代スタッフ児玉真由美さんの娘で、たまりばと一緒に活動したこともある児玉奈央さん。おとなが差し出す様々なプログラムやカリキュラムに追われ、時間が小刻みに刻まれた生活を強いられている子どもたちが、他者からの評価の眼にさらされることなく、今やりたいと思ったことに自由に自分の「じかん」をつかって過ごす子どもの姿が描かれている。2022年7月「ポレポレ東中野」を封切に、全国で上映予定。これにともない、各種取材・講演の依頼が急増しつつある。今後持ち込まれるであろう視察・見学、相談体制の整備が課題となっている。

2. 事業内容

居場所（活動拠点）・事業

A) 川崎市子ども夢パーク	} 指定管理施設	指定管理料（分担金）：52,876,000 円
B) フリースペースえん		
C) 川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュック」（川崎市生活保護受給世帯等若者就労自立支援事業）		委託費：57,331,000 円
D) 「よつばの会」（川崎市学習支援居場所づくり事業）		委託費：5,980,678 円
E) 「ふれあい心の友」（川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業）		委託費：5,759,846 円
F) コミュニティスペースえんくる・フードパントリーたまりば		
1. かわさきを食でつなげる居場所支援事業（全国食支援活動協力会） （2020年12月～2021年11月）		助成金：4,500,000 円 （2021年度分 2,010,992 円）
2. 厚労省補助事業「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業」 （全国食支援活動協力会）		助成金：2,500,000 円
3. 居場所を失った人への緊急活動応援助成（中央共同募金会）		寄付金：2,040,000 円
4. 「子どもの居場所づくり活動」（キューピー未来たまご財団）		助成金：700,000 円
5. かわさき市民公益活動助成金 ステップアップ100		助成金：1,000,000 円
6. かわさき市民公益活動助成金 組織基盤強化助成		助成金：300,000 円
7. 市民しきん いしずえ（2021年10月～2022年9月）		助成金：500,000 円 （2021年度分 262,800 円）
8. その他、 王将フードサービス、むすびえ		助成金：220,000 円
リコー社会貢献クラブ・FreeWill、川崎西ロータリークラブ		寄付金：400,000 円
G) その他		
1. 「発達障害を持つ不登校の子どもたちへの学校外での 多様な学びを支える教育支援事業」（NOBUKO 基金）		助成金：2,500,000 円
2. 令和3年度NHK歳末たすけあい配分金（神奈川県共同募金会）		寄付金：970,000 円
3. かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク [川崎事務局]		委託費：513,436 円

(1) 誰もが安心して過ごせる居場所の開設と運営

< A) 川崎市子ども夢パークの管理・運営 >

・(公財) 川崎市生涯学習財団と「川崎市子ども夢パーク共同運営事業体」を結成し、指定管理者として川崎市子ども夢パーク（以下 夢パーク）の管理・運営業務を行ない、夢パーク所長を理事長 西野博之から、事務局長 友兼大輔に交代し、副所長を千葉志門が務めた。生涯学習財団からの副所長とあわせ、計二名体制でより安全な施設管理、運営体制を実現した。

夢パークは、「川崎市子どもの権利に関する条例」の具現化を図ることを目的として川崎市によって設置され、子どもの活動拠点、プレーパーク、不登校支援、乳幼児・子育て支援、多文化共生、世代間交流等、多機能が備わった子どもたちの総合的な居場所である。これらの実現を目指して、以下の3つを事業の柱として、管理・運営を行なった。

< 夢パークの特徴 >

- 「プレーパーク」…土や水、火や木材などの自然の素材や道具や工具を使い、子どもたちの遊び心によって自由につくりかえられる遊び場
- 「フリースペースえん」…主に学校の中に居場所を見出せない子どもや若者たちが、学校外で多様に育ち・学ぶ場
- 「子どもの活動拠点」…子どもが自由に安心して集い、自主的及び自発的に活動する拠点

<子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所>

夢パークでは「子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所」であることを目指して整備してきた。子どものいのちを真ん中におき、一人ひとりの自己肯定感を育む環境づくりに力を入れている。子どもが安心して、ありのままの自分でいられることを尊重し、自分の中から湧き出る「やってみたい」を大切にしたいと考えている。そして、できるだけ禁止事項をつくらず、子どもの発想で自由に遊び、自分の力の限界に挑戦し、それができたときの達成感を通して自信を育むとともに、安心して失敗できる環境づくりに力を注いだ。ここでは子どもの「参加」を大切に、運営や遊具の製作・設置・撤去、イベントの開催などに子どもの意見を聴き、子どもたちが自主的・自発的に活動する拠点づくりをめざした。

- 使いながらつくり続けていく場
- 子どもの自由な遊び、活動がどんどんふくらむ場
- 子どもが自由に安心して居られる場
- 学校以外での育ち、学ぶ場
- 川崎市の子どもネットワークの拠点となる場
- 子どもたちが自分たちで動かしていく場

・開設日時（夢パーク）

2021年4月1日～2022年3月31日

通年（毎月第3火曜日の施設点検日、臨時施設点検日、年末年始を除く） 9:00～21:00

・場所：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1 川崎市子ども夢パーク

・総利用者数：60,674人

<コロナ禍での対応>

コロナ禍において、子どもへの虐待やDV、子どもの自殺の増加などの懸念から子どもの居場所が不可欠であると考え、夢パークを開け続けた。その上で、利用時間の分散を目指して、滞在時間や飲食への制限のお願いを掲示するなど、感染症拡大防止に務めた。

また、子どもたちの『やりたい』を確保するために、子どもたちとスタッフで相談を重ね、利用のルールなどの見直しを行ったり、コロナ禍でのイベント開催に向けた話し合ったり、子ども参画の推進を図った。

夢パーク入場の際に来場票（個人用）の記入をお願いし、回収し来場者把握を行った。また、手洗い・マスク着用、アルコールの設置など徹底を図った。

< B) 不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」の運営 >

川崎市子ども夢パーク内において、学校や家庭・地域の中に居場所を見出せない子どもや若者が安心して過ごせる居場所づくりを行なった。今年度の特徴としては、小学生の登録者が急増していることがあげられる。

○ 自分で決めるプログラム

決められたカリキュラムはなく、子どもたち一人ひとりが、自分でその日をどのように過ごすかプログラムづくりを決定し一日の活動を行なった。“この指とまれ”方式で、自主企画をたて、仲間を集めて一緒に活動した。

○ 昼食づくり

フードバンクやえんめし自主サークル「あたたかいごはんを食べる会」と連携し、「自分たちと一緒に作って食べる」を大切に、子どもや若者を中心にスタッフやボランティアがサポートしながら、毎日メニューを決め、買い物・野菜の収穫・調理・配膳・片付けなど、毎日30～40人分の昼食づくりを行なった。（1食250円）

- ・開設日時（フリースペースえん）
2021年4月5日～2022年3月25日
月曜日～金曜日 10：30～18：00 祝日は休み（ただし、火曜日は10：30～14：00）
開設日：214日
特別活動日：4日（自然野外体験、合宿、イベントなど <別紙参照>）
- ・場所：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1 川崎市子ども夢パーク内
- ・対象者：登録制

登録者数（2022年3月31日現在）

	女性	男性	計
小学生	20	26	46
中学生	10	27	37
高校生年齢	10	14	24
19才以上	16	22	38
計	56	89	145

<コロナ禍での対応>

「居場所の確保」のため開室をし続け、子どもたちと感染症拡大防止の工夫を考え続けた。また、講座やミーティング、保護者会なども引き続きオンラインを活用して行なった。

衛生管理を徹底して食事づくりを行い、飛沫防止のシートやつい立を子どもたちと作成したり、使用した食器を毎回煮沸消毒したりするなど、様々な感染予防対策を行った。

< C) 川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」(以下ブリュッケ) の開設・運営 >

新型コロナウイルス感染拡大の状況が続く中で、2020年度から居場所利用者の減少傾向が続いていたため、2021年度は改めて若者たちを居場所に呼び戻す取り組みを積極的に行なった。また、委託内容の変更に伴って受け入れ層が拡大され、新たな利用者となる若者たちに対しても、居場所利用に繋がりやすくするための環境整備を積極的に行なった。具体的にはグループワーク内容の見直し、居場所開所時の見学受け入れ、開所日以外の予約制居場所の実施、ブログやLINEを活用した情報発信などである。結果的に年間を通して、昨年度の3倍以上の利用人数達成に至ることとなった。7月の居場所移転に伴い、居場所のスペースが拡大し、設備の充実が居心地の良さにもつながっており、ソフト、ハード両面から多くの若者を受け入れる居場所が実現した。一方、利用人数増加の中で人と接することに不安が強い若者たちが安心して過ごせる居場所づくりにも積極的に取り組んだ。これまで集団中心であったグループワークに「ひとりdeワーク」の導入。加えて、月・水・金の居場所開所日以外で火木の予約制の個別居場所を実施した。個別居場所でまずは職員と楽しい時間を過ごすことからスタートし、開所日の「ひとりdeワーク」へ参加、そこから仲間と過ごす「みんなdeワーク」へとつながっていく、といった段階を踏みながら居場所へつながるケースが複数見られた。また、アウトリーチ支援においては、これまで行ってきた福祉事務所での面談の件数を増やし、必要に応じて自宅訪問のアウトリーチ（訪問居場所）も実施した。居場所へのつながり方は人それぞれであり、今年度取り組んだ個別性を重視した居場所づくりは結果として、多くの若者とのつながりを実現させることができた。

- ・開設日時
2021年4月1日～2022年3月31日

月曜日～金曜日 9:30～18:00

開所居場所: 月・水・金 10:30～17:00 予約制居場所: 火・木 10:30～17:00 (一人2時間程度)

【開設時間例】

月・水・金: 「みんな de ワーク」のんびりヨガ、各種グループワーク

「ひとり de ワーク」PC 個ワーク、珈琲工房

昼食づくり、フリータイム、ミーティング

共食タイム (「おいしい・うれしい・たのしい」をみんなで!)

火・木: 予約制居場所・福祉事務所、自宅へのアウトリーチ (訪問居場所)・ご家族相談など

CW とのケース打合せ、行政関係機関とのケースカンファレンス、連携・調整会議

・場所: 神奈川県川崎市中原区内 (2021 年 7 月 16 日移転)

・対象者: 登録制

●年間登録者数 69 名 (2022. 3. 31 現在)

	15～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	合 計
男性	14	12	11	2	4	43
女性	13	7	4	1	1	26
合計	27	19	15	3	5	69

●支援類型

支援類型別相談支援者内訳 (重複あり)	人数
居場所支援	40
就労支援	19
アウトリーチ支援	10
その他 (CW への相談援助・定着支援・関係機関との連携ケース等)	28

●年間利用者延べ人数 (合計利用延べ人数 922 名)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
34	39	55	30	56	81	93	94	122	93	97	128

＜コロナ禍での対応 ～デジタルアウトリーチの取り組み～＞

新型コロナウイルスの影響を受け、減少傾向にあった居場所利用者を改めて呼び戻すため、今年度はデジタルアウトリーチへの取り組みを行った。「ブリュッケブログ」と「ブリュッケLINE」を開設し、グループワークの予定や活動内容、お昼のメニュー、フードバンク入荷日のお知らせなど、日々の居場所の様子の発信を行った。当初、LINE でつながることを拒否する若者などをある程度想定していたが、結果的にはLINE 登録、ブログ閲覧ともに順調に数が増え、最近では「LINE のお知らせが楽しみ」「居場所に行けなかった日は必ずブログを見る」などの声が聞かれるようになった。また、ZOOM を使ったグループワークのオンライン配信も好評である。居場所来所が難しい若者がオンラインでは参加できたり、コロナの濃厚接触者となり来所ができない若者がオンライン参加するなど、若者たちのデジタルツールへの親和性を改めて実感するとともに、オンラインを使った居場所とデジタルアウトリーチの更なる可能性を感じる展開となった。

< D) 「よつばの会」(川崎市学習支援居場所づくり事業) の開催 >

高津区を中心とした川崎市内の生活保護世帯、及び一人親世帯の中学生・高校生に対して、学習支援・居場所づくりを行なった。個別の理解度や苦手分野に合わせた個別学習を中心に行ない、学習以外にもサポーターや来ているメンバー同士が交流し関係性を築くことでその後の学習スムーズにつながるよう心掛けた。夏期や高校入試直前には、希望者に対し集中講座・無料の模擬試験を実施した。また、高校進学後も、いつでも相談や自習に来られるように受け入れ態勢を整えた。本事業の趣旨を考え、生活困窮家庭の子どもたちが学習環境を失わないよう、緊急事態宣言下においても事業を実施した。また、コロナ禍で様々な不安を抱えたメンバーや親の相談が多数寄せられ、丁寧に対応した。

・開設日時

2021年4月1日～2022年3月31日

週2日(月曜日・木曜日) 18:30～20:30 祝日は休み

開催回数: 93回(夏期や高校入試前の集中講座を含む)

・開設場所: 川崎市子ども夢パーク内「ミーティングルーム、多目的ホール」

・対象者: 登録制

登録者(2021.3.31現在)

	男		女		計
	生活保護	一人親	生活保護	一人親	
1年生	1	0	1	0	2
2年生	0	0	0	1	1
3年生	3	2	3	1	9
計	4	2	4	2	12

< E) 「ふれあい心の友」(川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業) の実施 >

川崎市内の児童相談所と関わりのある不登校・ひきこもり傾向にある児童・生徒が、主に大学生が登録している「ふれあい心の友」と児童相談所内で交流し、自主性や社会性の伸長を図ることを目的としている。この事業のうち、フリースペースたまりばは、「ふれあい心の友」登録者と対象となる児童・生徒が一对一で学習をしたり話をしたりする個別活動支援のうち、「ふれあい心の友」の募集・研修・派遣を担当した。また、児童相談所に通ってくる複数名の児童・生徒と一緒にゲームをしたり料理をしたりする集団活動支援のうち、活動内容の企画立案・準備・運営を担当した。今年度は新型コロナウイルス感染拡大が要因となり、本人・保護者、もしくは児童相談所の判断により、活動が中止となったためコロナ禍前例年に比べて大幅に活動回数が減った。

・実施日時

2021年4月1日～2022年3月31日

実施回数: 個別活動支援 110回

集団活動支援 27回

研修 18回

・場所: 川崎市こども家庭センター、川崎市中部児童相談所、川崎市北部児童相談所

・対象者: 川崎市児童相談所と関わりのある18歳未満の児童・生徒

2021 年度利用者数（延べ人数）

	こども家庭センター	中部児童相談所	北部児童相談所	計
個別活動支援	46	32	32	110
集団活動支援	9	7	22	38

< F) コミュニティスペースえんくる・たまりばフードパントリーの運営 >

2021 年度は、2020 年度に引き続き、一般社団法人全国食支援活動協力会からの助成（かわさきを食でつなげる居場所支援事業（全国食支援活動協力会）、厚労省補助事業「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業」）を受けて引き続き「たまりばフードパントリー」事業を継続した。「まちのひろば」として、キューピー未来たまご財団による「子どもの居場所づくり活動助成」を受け「えんくる食堂」を開始、王将フードサービスと全国子ども食堂ネットワークむすびえの助成、かわさきこども食堂ネットワーク等を通じた食材寄贈により子ども無料、大人 100 円で毎月 3 回の食堂運営を行うことができた。また、かわさき市民公益活動助成金を受け、子どもたちの放課後の居場所「こども☆きっさ」、若者や親たちが集う機会となる「チャレンジ・ラボ」「みんなでキッチン」をスタートさせた。公式 LINE で入荷食品や食堂・イベントの案内を行うことで、タイムリーに情報を届けることができ、市民・企業・団体からの生鮮品寄贈を無駄なく配布できる体制を築くことができた。また、新入学準備応援フェアを企画し、多くの地域の方の協力・寄付を得て、ランドセルから文房具まで、新入学の子どもたち、そして汚れても買い替えができなかったり、必要なものを待てないまま我慢してきた子どもたちに、必要なものを渡すことができた。

各種のこうした活動の中から、さまざまな SOS が届くようになった。そこで、中央共同募金会による「居場所を失った人への緊急活動応援助成」を活用して SOS をキャッチする機能を強化、相談・ソーシャルワークも行える事業を開始し、「市民しきん いしずえ」の助成を受け「相談カフェ」も開始した。こうした活動の基盤強化のため、「かわさき市民公益活動助成金 組織基盤強化助成」を活用して、広報体制も整えることができた。

・実施日時

2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

週 4 日（月・水・金・土曜日）10：30～18：00 祝日、年末年始は休み

・場所：川崎市多摩区宿河原 6-26-24

・利用者と利用者数

（1） たまりばフードパントリー

ひとり親やひとり親世帯の子どもたち、若者たちを中心に、多様な年齢のさまざまな背景を持つ近隣住民の利用があった。生活保護課や社会福祉協議会、地域のフードドライブを実施する団体など、さまざまな団体・機関からフードパントリーの紹介がなされるようになった、

○配布数：10,649 個、2,642 kg ○利用者数 1438 人 <詳細は別紙 1 参照>

（2） えんくる食堂利用者と利用者数

ひとり親世帯を中心に、多くの利用者が訪れた。コロナ禍で会食を避け、持ち帰りをする家族に加え、子のひきこもりや障害等によって食堂利用が負担となる家庭にも持ち帰りによって食事を提供することができた。

●月 2 回の夕食の食堂

食堂利用 子ども 129 人 大人 109 人

持ち帰り利用 子ども 279 人 大人 236 人

計 子ども 408 人 大人 345 人 合計 753 人 <詳細は別紙 1 参照>

●こどもカレーランチ

夏休み延長に伴う緊急開催 4回 45人

毎月第2土曜日の定期開催(10月開始) 6回 168人

(3) こども☆きっさ(月・水・金の14:30-17:30で実施)

夏休みより事業を開始した。子どもはジュース一杯、お菓子一個無料で立ち寄れる放課後の居場所である。近隣の小学生を中心に、口コミで利用者が広がった。未就学児を連れた親も利用している。

登録者(利用カード作成) 72名

開催日数 111日 参加人数(述べ) 888人

(4) みんなでキッチン

新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、若者と共にご飯を作って食べる会として実施した。

開催回数: 4回 参加者数: 32人

(5) チャレンジ・ラボ

新型コロナウイルス感染拡大を受け、少人数で実施を行なった。若者が多様な生き方を知る機会として、親たちが人間関係を広げ安心して過ごせる時間として実施した。

開催回数: 9回 参加者数: 52人 <詳細は別紙1参照>

(6) 相談支援

コミュニティスペースえんくる訪れた年間述べ 1359人の方々と事業責任者がコミュニケーションを重ね、信頼関係を築いていった。

実人数: 約60名

相談、同行に加え、ケースカンファレンス、機関連携等による連携支援、調整等を行なった。

(2)不登校・引きこもりなどで悩む本人や家族等の相談・援助活動

①来所相談

・内容: 不登校、ひきこもり、非行、いじめ、生活上の問題等で悩む本人や家族等の電話相談、事前予約による来所相談を行なった。また「ブリュッケ」では、市内福祉事務所CWとの連携を重視し、複合的な課題を持つ家族への対応も含めたCWの相談やスーパーバイズなど、「CWへの支援」も積極的に行なった。

(無料)

・相談受付時間: (えん) 原則 月曜日～金曜日 10:30～18:00 (祝日は休み)

(ブリュッケ) 原則 月曜日～金曜日 10:30～17:00 (祝日は休み)

・相談場所: フリースペースえん、ブリュッケ(アウトリーチ及び来所面接は予約制) 他

②派遣・アウトリーチ相談

・内容: 「ふれあい心の友」事業では、ふれあい心の友に登録している学生を児童相談所内に派遣し、不登校・ひきこもり傾向にある児童・生徒の相談・援助活動を行なった。また「ブリュッケ」では、福祉事務所までなら来所できる若者に対し、福祉事務所内等でアウトリーチ相談を行なった。その他、個人宅への訪問や福祉事務所への同行支援なども行なった。

・相談時間: 児童相談所や福祉事務所と調整

・相談場所: 児童相談所(登録制)、福祉事務所(登録制) 他

③本人や保護者の相談

○保護者とスタッフの語り合う会

- ・内容：保護者との関わりを大事にするために、また保護者同士がつながってお互いに話ができる様に、予定確認の他、その時々々の保護者の困りごとや子どもの様子などを話しあう保護者会を開催した。予定の確認の部分はハイブリッドで開催した。
- ・日時：毎偶数月
- ・場所：フリースペースえん・夢パーク内多目的ホール
- ・対象者：フリースペースえんに登録している子どもの保護者

○親の会「たまりば」

- ・内容：今年度より、主としてえんの説明会申し込みに入ることができなかつた不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者を対象にそれぞれの抱える悩みを語り合い、「不登校のとらえ方」「子どもの受けとめ方」などを手に入れる会を開催した。
- ・日時：毎奇数月（原則）
- ・場所：コミュニテースペースえんくる・夢パーク内多目的ホール等
- ・対象者：不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者

○不登校グループ別相談会

- ・内容：不登校・障害など同じ悩みを抱える保護者同士が出会い、悩みを分かち合い共感しあうことで孤立をさけ、お互いを支え合えるような繋がりを生みだすことを目指し、相談担当スタッフ5名程度の参加のもと、隔月でグループ相談会を開催した。
- ・日時：毎奇数月（原則）
- ・場所：夢パーク内多目的ホール
- ・対象者：不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者

(3)フリースペースの利用者による自主企画・活動の支援

< A) 川崎市子ども夢パーク >

① プレーパーク

子どもの「やってみよう」という気持ちを大切に、遊びを制限するような禁止事項をできるかぎりつくりず、子どもが考え、自分で決めて、実行するプロセスを大事にした。自分の力の限界に挑戦することを通じ、「やったー」「できた」と達成感を手に入れると同時に、安心して失敗できる環境づくりに努めた。自由な発想で自由に遊べる環境を大切にしたい。

② 3大イベント（夢まつり、こどもゆめ横丁、新春イベント）

夢まつりは、コロナ禍のため、夢まつりはやむを得ず取りやめ、7/23 の夢パークのお誕生日に向け、来場者の密をさけるために4つの大型遊具を作成した。また、7/23 当日は来場者と共に夢パーク内の花を摘んで、バースデーケーキに見立て飾り付けた。

こどもゆめ横丁では、YTK(横丁もったのしくしよう会)を中心に子どもたちとスタッフでミーティングを重ねた結果、横丁内の入場制限やお店の大きさ・区画、商品の包装の仕方や渡し方、飲食スペースの限定など感染防止に関する数多くの工夫を凝らし開催することができた。

初夢！新春イベントは、コロナ禍のため、餅つき・豚汁は中止とし、昔遊び、カルタ、書き初め、どんど焼きなどを行なった。また、今年度は、高津区市民提案型協働事業でもある「青空かみしばい&和物大道芸」の実施も行なった。

③ライブイベント

スタジオ登録者と月に2回『サタデーナイトスタジオ』を開催しライブイベントの再開を目指して話し合いを続けている。そこへ、コロナ禍でKUJIROCKに参加・企画をしたことのない高校生へ、経験者である大学生が他校との交流や出会いの場にもなっているなどの面白さを伝えたいと参加している。

< B) フリースペースえん >

①ミーティング

- ・内容：安心して過ごせる居場所を自分たちの力で整えていくために、誰もが言いたいことを言える環境づくりに力を注いだ。
 - お茶会ミーティング（毎月1回）
 - ショートミーティング（毎週月曜日）
 - その他（随時）
- ・子ども達からの提案・話し合いにより、下半期からはミドルミーティングとして、ミーティングを一本化。一回30分を話し合いの目処とし、週一回開催した。

②自然体験合宿

- ・本年度は、開催せず。

③たまりばフェスティバル2021 ～ color 三原色 ～

- ・内容：講座や自主企画など一年間を通して行なってきた活動の発表の場として、フェスティバルを開催するために、子どもたちが「プロジェクト X（フェスティバル実行委員会）」を立ち上げ、準備を行なった。そこが中心となって仲間を集め、広報、プログラム・パンフづくり、その他の企画・運営を行なう
- ・開催日：2022年3月19日（土）14：00～17：30（開場13：00）
- ・場所：川崎市男女共同参画センター すくらむ21
- ・来場者 250名
 - *800人入る大ホールを使って、万全の感染対策をとったうえで開催

④自主企画「この指とまれ」（講座・自然観察・野外体験・イベント等）

- ・内容：講座や企画は子どもたちが「こんなことやりたい！」という思いをミーティング等で呼びかけし、仲間を募って実現していった。 <詳細は別紙2参照>
- 連続講座 13講座
 - 月1回程度、ものづくりや民族音楽（南米・アフリカ）やダンス、演劇、歌、アート、藍染めなどの表現講座、お菓子づくりやイタリアンパスタ講座などを開催した。
- 単発企画 19回
 - ミーティングなどで子どもたちが提案し、主体的な話し合いによって決定した自主企画や各種イベント等に参加した。
- その他の企画 9種

⑤個別学習支援および進路相談

- ・内容：さまざまな発達段階にある児童・生徒に対する個別またはグループでの学習支援および進路相談を行なった。新しくできた多目的ホールなどを使って、個別に学習する子どもたちが増える傾向にある。また、慶応大学ボランティアサークル「ライチウス会」との連携によってオンライン個別学習支援を行なった。
- ・日時：随時

・場所：フリースペースえん、川崎市子ども夢パーク内「多目的ホール」

⑥オンライン（えんらいん）の活用

えんらいん（えんからのオンライン配信）を開設し、運用することで、子どもたちが在宅でもミーティングや講座に参加できるように工夫した。

< C) ブリュック >

① 居場所支援

○共食タイム

開所以来、若者と協力し、昼食づくりを行う「共食タイム」を継続している。今年度は居場所の移転があり、約3週間の閉所期間を余儀なくされた。移転後、「居場所閉所期間の生活状況」を若者たちにインタビューをすると、「ブリュックに来ないと食事をとることがない」「何を食べたかを思い出せない」等の声が聞かれた。特に単身世帯の若者は、ブリュックでの昼食を栄養源としているため、「ブリュックが始まってよかった」との声が多く、若者たちへの「食支援」の重要性を再認識させられた。移転先では、キッチンスペース・調理設備が充実したことから、若者たちの食べたいメニューの要望にも応えられるようになった。「餃子が食べたい」「ケーキを焼きたい」など、若者たちから出てくる「食べたい」「作ってみたい」という希望は、「食」を通じて利用者と繋がっていく新たなコミュニケーションツールであり、その結果、「居場所」への安定的な通所につながっているケースも見られている。

○グループワーク

今年度は受け入れ対象の拡大に伴い、様々な年齢・状況の若者たちが参加できるように、グループワーク内容の改定を行った。今年度の大きな特色は、「みんな de ワーク（集団）」と「ひとり de ワーク（個別）」に分け、集団の中にも一人の時間が守られ、作業に集中できる環境を用意したことである。実際に新規の相談では、「ひとり de ワークから通所を始めたい」という声が多かった。新設された「個ワークスペース」でパソコン操作などを自習する『PC 個ワーク』に挑戦する若者が多く見られた。「個ワークスペース」で過ごしつつ、周辺に何となく誰かがいる場所に慣れていき、次第にグループワークコーナーに移動していく流れができていく。

新たなワークとともに、従来から人気のあったワークも継続している。従来のワークの中では、「それぞれの「名作」を語る」が引き続き盛り上がりを見せていた。居場所で過ごす時間の中で、少しずつ「自分の名作」を語る力をつけ、発信力を養っていく姿が見られるとともに、新たな利用者との出会いも刺激となり、若者たちの活発なコミュニケーションの場となっている。

○予約制居場所

今年度より、開所日以外の火曜日と木曜日を予約制居場所として開所。個別対応の居場所支援を行った。担当職員と好きなゲームやYouTube鑑賞を楽しんだり、PC練習の時間に使う若者などが見られた。居場所の環境に慣れ、職員と交流し、徐々に安心感を抱いていく様子が見られ、予約制居場所からスタートし、開所日利用へとつながっていくケースが複数見られている。

・予約制居場所 対象者：9名 実施回数：25回 <詳細は別紙3参照>

○えんくる協力隊

今年度2～3月にかけて、コミュニティスペースえんくるとの連携により、若者たちの有償ボランティア参加の場として「えんくる協力隊」が実現した。就労経験がなかった若者、就労経験はあるものの失敗や挫折により就労意欲が持てないでいた若者など、6名が参加。「カフェ開店準備（清掃、在庫チェックなど）」「こども喫茶お手伝い」「こども食堂の調理補助」など、いずれも途中で中断したケースはな

く、「また参加したい」との声が多かった。他にも「知っている人がいたから安心して働けた」「初めて働いて、少しだけ自信が持てた」「お金が稼げてうれしい」などの声が聞かれている。えんくる協力隊への参加は、すぐの就労は難しい若者たちにとって、新たな一歩を踏み出し、自信をつける貴重なスモールステップの機会となっており、次年度以降も継続して取り組んでいきたい。

- ・カフェ開店準備 参加者：3名 実施回数：18回
- ・こども喫茶お手伝い 参加者：1名 実施回数：4回
- ・えんくる食堂調理補助 参加者：2名 実施回数：6回

○その他

- ・ループリック評価を用いた居場所アセスメントにより、個々の自立への歩みを職員全体で共有
- ・利用者増加に伴い、個々の記録を管理する専用データベースシステムを構築中

② アウトリーチ支援

居場所まで来ることが難しい若者を対象にアウトリーチ支援を継続して行っている。アウトリーチ先は昨年度までは福祉事務所中心であったが、今年度より自宅訪問を実施し、訪問型の居場所提供を実現。訪問先ではニーズに合わせて、学習支援や訪問居場所などを行っている。居場所で行っているプログラムと同様に本人が好きで、好きな世界を語ってもらう、出張版「それぞれの名作を語る」が人気である。居場所に来ている若者とアウトリーチ対象の若者が対面することはなくとも、それぞれの「名作」を通じて交流する機会も出来ている。また、ひきこもり状態にある若者のご家族との定期面談も継続して実施している。

- ・福祉事務所アウトリーチ 対象者：5名 実施回数：35回
- ・自宅アウトリーチ 対象者：3名 実施回数：11回

③ 就労支援

○就労支援の基本

ブリュッケの就労支援には、『居場所での成長を通して、社会的自立・就労に繋げる』・『アウトリーチ支援により、社会的自立・就労に繋げる』の2つのタイプがあり、どちらの支援も「就労支援を通じて、企業・地域とつながり～企業・地域と連携して、本人の自立・就労をサポートする」という視点を重視して行なった。若者が本来持っている能力を引き出すこと、自主性を尊重することを基本に、個別のニーズに応じたオーダーメイドのプログラムを作成し、寄り添い型の支援・「人と人を繋ぐ」支援を実施した。

○居場所から就労をめざす若者への支援の取り組み

居場所に通う若者には、居場所での活動による本人の一步一步の歩みと自主性を尊重し、一人ひとりの状況に応じた段階的・的確な就労支援を行なった。ブリュッケの具体例としては、若者たちが居場所に通うことによって心身ともに安定した日々を過ごすようになり、活動の中で少しずつ意欲を取り戻すことで本人の興味・関心が表現されてくる時期がある。その時期に本人たちから「自分ができるような仕事があればやってみたい」という話をしてくるケースが多い。そのタイミングで、自立・就労支援員による本人の就労に関する興味・関心の聴き取り、企業開拓、連携企業の職場体験・見学、企業と本人のマッチング等、就労に向けた取り組みが段階的に展開されていった。

○アウトリーチによる若者への就労支援

アウトリーチで出会う就労希望の若者に関しては、就労支援の全過程（希望職種の選択、求人情報の収集、応募先の選定、履歴書・職務経歴書づくり、面接準備、就労、定着）を本人の働くこ

とへの自覚をつくる過程と捉え、本人の就労とともに社会の中で自立していく力をつける大切な期間として寄り添い型の支援を行なっていった。また、正社員を希望する若者に関しては、「職務経歴書づくり」は特別に重要であり、この作成過程を通じて自分の人生と向き合う機会とした。また「何をしたいのかわからない」という若者たちには、「職場見学・職場体験」「お試し就労」など、就労に繋がる支援も定期的に行った。その他にも、資格所得・職業訓練等、スキルアップに向けた支援も行った。若者の職業スキルや社会スキルを向上させるために、ハローワークの職業訓練や受入れ可能な企業・NPO と連携し、職場実習やスキルアップ訓練、各種資格取得に取り組んだ。

○地域の経営者との信頼関係を構築

～「哲学のある経営者」との連携～

ブリュッケを受託後、川崎北税務署「間税会」、神奈川県中小企業家同友会（以下「同友会」）、川崎市商工会議所などの経営者団体及び地元の企業経営者・商店主との交流、連携を継続的に深めてきた。出会った経営者の中には、素晴らしい“経営理念”を掲げ、人材の育成にあたっては、ダイバーシティ（性別、人種、障害、年齢、学歴、価値観などの多様性を受入れ、広く人材を活用することで企業改革、生産性の向上に役立てる）の考えを取り入れ、特に「同友会」に関しては、企業理念に「第1に、自社の存在意義を改めて問いなおすとともに、社会的使命感に燃えて事業活動を行い、国民と地域社会からの信頼や期待に高い水準で応えられる企業。第2に、社員の創意や自主性が十分に発揮できる社風と理念が確立され、労使が共に育ちあい、高まりあいの意欲に燃え、活力に満ちた豊かな人間集団としての企業」と謳い実践され、ブリュッケの若者を受け入れてくれている企業も生まれている。

【2021年度ブリュッケ登録者のうち就労者の勤務形態】

正社員	パート：週4～5日	パート：週1～3日	契約社員・委託	その他
2名	4名	4名	1名	1名

【就労に向けた活動参加者数（延べ人数）】

体験実習	職場見学	就労体験
10名	5名	28名

④ 川崎市内福祉事務所の職員（ケースワーカー）・関係機関各所とのチーム支援の実現

市内福祉事務所を対象とした事業所説明会を今年度も実施。事業説明と併せて、現場における様々なひきこもりケース等の事例検討なども行った。また、事業所移転に際しては、関係機関各所を対象に事業所内覧会を実施している。今年度より事業拡大に伴い、「川崎市生活自立・仕事相談センター（だい job センター）」「川崎市ひきこもり地域支援センター」からの紹介ケースの受け入れを行っている。登録者増加に合わせて、多機関連携ケースが増えており、支援者会議やカンファレンスなどチーム支援の機会が多く持たれるようになった。そうした中で関係機関同士がそれぞれに抱えるケースを共有したい、学び合いたいなどの声を受け、ブリュッケ主催による事例検討会の実施を計画。各方面より参加申し込みを頂いたがオミクロン株の増加のタイミングと重なり、あえなく中止となった。次年度以降改めて開催を予定している。

<「工房たまりば」>

本年度は、マスクやハンカチなどの藍染め製品の製作、販売を行った。コロナ禍で工房製品の販売の機会にしていたイベントがほとんど中止になったため、例年より製作数、販売数はかなり減ったが、製作時はフリースペースえんの保護者同士の交流の場となっていた。

また、たまりば 30 周年応援寄付の返礼品として、藍染めのエコバッグやどんぐりキーホルダーを作成

した。

(4)保護者・教育関係者・学生・市民の学習と交流の機会及び情報の提供・発信活動

<広報・啓発活動>

①通信の発行

- ・内容：毎月のカレンダー、活動報告、お知らせ等を掲載した定期情報紙『楽えんだより かわら版』（毎月）と『たまりば通信』（年4回）や、一年間の活動の様子や会員の寄稿を掲載した冊子『楽えんだよりDX』（年1回）を制作、発行した。
- ・夢パーク利用者向けには、共同運営事業体として、『夢パークつうしん』を隔月で発行。

②ホームページ・Facebook の開設と運営

- ・内容：たまりば HP をリニューアルし、活動の予定や報告などを公開し、たまりば会員だけではなく一般の人への広報の場とした。また、フェイスブック等 SNS で、日常の様子を広く伝えた。

たまりば HP <https://www.tamariba.org/>

たまりば FB <https://www.facebook.com/tamaribaNPO/>

えんくる FB <https://www.facebook.com/encru.tamariba/>

えんくる公式 LINE 等

*このほか共同運営事業体として、夢パークの HP・インスタグラムの運営

③フリースペース活動説明会

- ・内容：不登校・ひきこもりに関する理解を促進し、「フリースペースえん」や「川崎市子ども夢パーク」の活動をより身近に感じ、知ってもらうために「フリースペースって、どんなところ？」を開催した。
- ・日時：毎偶数月
- ・対象者：不登校児童・生徒の保護者、ひきこもりの当事者、支援機関、学校関係者、研究者、学生等
(本年度は、保護者優先1家族1名で、延べ107名参加)

④講演活動・スタッフ派遣および視察・見学等の受け入れ

- ・不登校・ひきこもりはもとより、子どもや若者たちの学校外での多様な生き方や学び方への理解を深めるために、また居場所のあり方、子どもの権利、遊び、子育てなどをテーマに、市民、教育関係者、行政職員、NPO 関係者、学生などを対象に幅広く講演活動を行なった。
- ・一年間を通して、各地から川崎市子ども夢パーク及びフリースペースえん等への視察・見学を100件受け入れた。
- ・川崎市内の児童相談所（3カ所）で行なう研修の中で、ふれあい心の友の活動を中心にフリースペースたまりばの各事業について、事業紹介を行なった。
- ・遊び場づくりなどを行っている団体へスタッフ派遣をし、子どもの遊び環境の充実を図った。
- ・夢パーク合同見学会（一般）の開催

⑤講演会の開催

○たまりば30周年シンポジウムの開催

- ・内容：誰ひとり取り残さないまちづくりに向けて、『「弱さ」でつながる社会』をテーマにシンポジウムを行なった。また、「労働者協同組合法」が施行されることによって、多様な働き手と共に、地域課題に取り組む「協同労働」について語り合った。
- ・講師：熊谷晋一郎氏（東京大学先端科学技術研究センター准教授、小児科医）
澤田智洋氏（世界ゆるスポーツ協会代表理事/コピーライター）
向谷地生良氏（ソーシャルワーカー・浦河べてるの家理事長）

- ・コーディネーター
西野博之（認定NPO法人フリースペースたまりば理事長）
- ・日時：2022年1月14日
- ・会場：川崎市男女共同参画センター すくらむ21
- ・参加費：1,000円
会場参加、オンライン参加、見逃し配信 合計 約450名

○「子どもの権利ってなあに？」＜かわさき子どもの権利の日のつどい事業&ピンクシャツデー＞

- ・内容：私たちが普段過ごしている川崎市子ども夢パーク及びフリースペースえんは「川崎市子ども権利条例」の具現化を目指してつくられた。子どもの権利条例の策定に携わった山田雅太氏を招き、子どもたちと一緒に“子どもの権利”について考える会を開催した。
- ・講師：山田雅太氏（かわさき子ども権利フォーラム代表）
- ・日時：2021年11月30日
- ・会場：フリースペースえん
- ・参加人数：25名

○「いじめってなに？」＜ピンクシャツデー＞

- ・内容：世界各地でいじめ STOP を掲げる「ピンクシャツデー」をきっかけに、いじめを苦に自ら命を絶った、篠原真矢さんのお父さん、宏明(ひろあき)さんを招き、子どもたちと一緒に「いじめ」について考える会を開催した。
- ・講師：篠原宏明氏（一社）ここから未来 理事）
- ・日時：2022年2月23日
- ・会場：フリースペースえん
- ・参加人数：30名

<各種会議やネットワークへの参画・連携>

⑥国・東京都・神奈川県他の施策にかかわる協力・連携

- ・内閣官房「孤独・孤立フォーラム」で意見発表・提言（大臣出席）
- ・生活困窮者自立支援事業従事者関東・甲信越ブロック研修（厚生労働省委託事業/一般社団法人全国生活困窮者自立支援全国ネットワーク実施）にパネラーとして参加
- ・地方議会総合研究所主催の一都五県の議員を対象としたオンラインセミナーの講師を務めた
- ・神奈川県青少年問題協議会委員として参加（事務局：神奈川県福祉子どもみらい局みらい部青少年課）
- ・子どもと高齢者のスポーツや遊びによる世代間交流促進事業検討委員会
(東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム)

⑦川崎市・高津区の施策にかかわる会議への参加

- ・かわさき子どもの権利の日事業部会（事務局：川崎市こども未来局）
- ・川崎市ひきこもり支援ネットワーク会議 代表（所管：総合リハビリテーション推進センター）
- ・川崎市社会教育委員会議青少年教育施設専門部会（事務局：川崎市こども未来局）
- ・高津区地域教育会議（所管：川崎市教育委員会）
- ・高津区子ども・子育てネットワーク会議（事務局：高津区地域みまもり支援センター）
- ・川崎市子ども会議（所管：川崎市教育委員会）との連携・協力
- ・高津区防災ネットワーク会議（事務局：高津区役所危機管理担当）
- ・高津区生涯学習推進会議（所管：高津区まちづくり推進部生涯学習支援課）

⑧子どものセーフティネット構築における関係機関との協働・連携

- ・高津区要保護児童対策地域協議会（事務局：川崎市こども未来局）へ参加
- ・川崎市不登校対策連携会議（事務局：川崎市総合教育センター）へ参加
- ・神奈川県学校・フリースクール等連携協議会（事務局：神奈川県教育委員会）へ参加
- ・川崎市発達障害者支援地域連絡調整会議（事務局：川崎市健康福祉局）へ参加
- ・「高津区ボランティア・当事者連絡会」へ参加

⑨民間団体・市民との連携

- ・子どもの声を聴く無料電話相談「かわさきチャイルドライン」と連携協力
- ・「日本冒険遊び場づくり協会」と連携
- ・「フードバンクかながわ」「かわさき子ども食堂ネットワーク」と連携
- ・かわさきかえるプロジェクト（天ぷら油等の廃油を回収・再利用）と協力
- ・「かわさき子どもの権利フォーラム」と連携
- ・神奈川子ども未来ファンドとの連携により、いじめ撲滅をめざした「ピンクシャツデー」を開催し、連続講座のコーディネーターを務めた
- ・かながわ生活困窮者支援ネットワークと連携
- ・水曜パトロールの会（ホームレス支援）と連携
- ・ちいくれん（地域で子育てを考えよう連絡会）と連携
- ・子どもの権利かるた制作プロジェクトと連携し、「世界の子どもの権利かるた」の制作協力により、子どもの権利啓発に努めた。

<研修・実習等の受け入れ>

フリースペースえん及び川崎市子ども夢パークにおいてボランティアや職員、学生等の体験研修・実習を受け入れた。（一橋大学、東京都立大学、青山学院大学、東京農業大学、恵泉女学園大学、清泉女子大学、聖心女子大学、東京工業大学、中央大学大学院、早稲田大学大学院、神奈川大学社会教育実習、武蔵大学、武蔵野大学ソーシャルワーク実習、白梅学園大学子ども学部体験実習、横浜桐蔭大学サービ斯拉ーニング実習、日本女子大学社会福祉学科フィールドワーク、川崎市保護課実習など）

<かながわ生活困窮者自立支援ネットワークへの参画 >

G-3) かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（幹事団体及び川崎地域事務局）

2017～2019年度まで「かながわボランティア活動推進基金 21 協働事業負担金対象事業（神奈川県福祉部生活援護課との協働事業）」の委託を受けていた「かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（任意団体：かなこんネット）」の活動は、2020年度から県生活援護課からの直接の委託事業に移行となり、その幹事団体として2021年度も年間を通して活動を行った。

※運営体制：【全体事務局】一般社団法人インクルージョンネットかながわ

【川崎地域事務局】認定NPO法人フリースペースたまりば

【県西・県央地域事務局】特定非営利活動法人子どもと生活文化協会

・事業1：社会資源の広域的開拓

1) 民間団体、行政、関係機関等へのヒアリング

訪問や対面での地域資源の開拓や地域課題の把握を行うことは極力避け、ネットワーク会議や学習会の報告者の開拓や参加呼びかけを兼ねた電話やメールによるヒアリングを実施し、コロナ禍における課題の把握、支援状況等の把握に努めた。

2) かながわ生活応援サイトの掲載状況：掲載団体 99 団体

3) コロナ禍の生活困窮者支援に関するアンケートの協働実施

神奈川県生活困窮者対策推進本部（事務局神奈川県福祉子どもみらい局福祉部生活援護課）と協働で、コロナ禍の生活困窮者支援に関するアンケートを実施することで、NPO等の活動やコロナ禍で困窮する方々の状況、生活困窮者支援について意見を伺うことを試みた。

① アンケートの設計協力

アンケートの設計段階で、神奈川県生活援護課とかながわ生活困窮者自立支援ネットワークで協議の場をもち、アンケートの内容について協議を行った。

② WEBでの回答フォームの作成

民間団体がアンケートに答えやすいように、Google フォームによる回答フォームを制作した。

③ アンケート対象団体の選定

- ・かながわ生活応援サイトに掲載された行政以外の民間団体、関係機関 69 件
- ・かながわ生活困窮者自立支援ネットワークからメールでお知らせを配信している民間団体 67 件

④ アンケート依頼

- ・かながわ生活困窮者自立支援ネットワークから、かながわ生活応援サイト掲載団体、メール配信先の団体に個別に、メールでアンケートの依頼を行った。
- ・神奈川県生活援護課からは、県内各自治体に対して、該当する民間団体等にアンケートの協力を案内していただくよう依頼した。

⑤ アンケート回答団体数：38 団体

・事業2：研修&ネットワーク会議の企画・運営

毎月、県生活援護課とネットワーク幹事団体がオンライン幹事会を開き、一年間の「研修&ネットワーク会議」の企画・運営に関する打合せを行い、研修・報告会を開催した。2020年度のネットワーク会議では、新型コロナウイルス感染拡大により、支援の現場で何が起きているのか、多方面の現場よりご報告をいただいた。そして、さまざまな課題を抱えつつもぎりぎりのところでなんとか生きてきた人々の生活が、コロナ禍によってますます追い詰められ、見えにくかった社会の課題を際立たせてきている事実を確認しあうことができた。2021年度はそこから一歩踏み込んで、それでは今後、どんな支援や社会や地域のシステムが必要とされているのか、行政・民間・様々な立場、角度から意見を交わし、議論する機会とした。〈詳細は別紙4参照〉

(5) 就労支援及び無料職業紹介事業

川崎若者就労・生活自立支援センター・ブリュッケでは、「就労支援を通じて、企業・地域とつながり～企業・地域と連携して、本人の自立・就労をサポートする」という視点を重視した就労支援及び職業紹介を行なった。

【別紙1】 えんくる

○たまりばフードパントリーの配布数と利用者数

	配布数(個)		kg		利用者数(人)		日数
	1か月	1日	1か月	1日	1か月	1日	
4月	120	8	43	3	74	5	16
5月	1,033	61	193	11	118	7	17
6月	760	45	166	10	75	4	17
7月	869	48	167	9	95	5	18
8月	804	50	213	13	75	5	16
9月	880	55	323	20	74	5	16
10月	1,215	68	283	16	95	5	18
11月	1,662	104	365	23	62	4	16
12月	1,279	85	484	32	119	8	15
1月	1,054	75	224	16	97	7	14
2月	1,182	79	217	14	104	7	15
3月	2133	133	610	38	206	13	16
合計	10,649	55	2,642	14	1,438	7	192

○えんくる食堂利用者と利用者数

日付		食堂利用			持ち帰り			各回合計	月合計
		こども	大人	合計	こども	大人	合計		
5	22	10	10	20	0	0	0	20	20
6	19	6	8	14	5	3	8	22	40
	26	3	4	7	4	7	11	18	
7	17	3	3	6	11	7	18	24	52
	24	5	3	8	8	12	20	28	
8	21	7	5	12	5	10	15	27	54
	28	3	6	9	11	7	18	27	
9	18	11	7	18	8	6	14	32	67
	25	8	6	14	13	8	21	35	
10	16	7	3	10	13	12	25	35	75
	23	9	8	17	13	10	23	40	
11	20	3	2	5	13	10	23	28	70
	27	9	8	17	13	12	25	42	
12	11	4	3	7	13	12	25	32	85
	18	12	8	20	21	12	33	53	
1	22	3	3	6	22	22	44	50	93
	29	6	5	11	17	15	32	43	

2	19	3	3	6	23	17	40	46	95
	26	5	4	9	23	17	40	49	
3	19	4	4	8	22	20	42	50	102
	26	8	6	14	21	17	38	52	
合計		129	109	238	279	236	515	753	753
								こども	408

○チャレンジラボ

月日	講師	講座名
2021/7/28	田邊恵佑	コーヒーの淹れ方講座
2021/8/18	愛甲香織	よかよかお灸カフェ
2021/9/29	田邊恵佑	コーヒーの淹れ方講座
2021/10/20	中川裕子	ジャックオーランタン作り
2021/12/20	椎野修平	折り鶴でつくる正月飾り
2022/1/26	愛甲香織	よかよかお灸カフェ
2022/2/25	田邊恵佑	コーヒーの淹れ方講座
2022/3/26	田邊恵佑	コーヒーの淹れ方講座

【別紙2】＜フリースペースえん＞

連続講座

講座名	実施回数	内容
平センとものづくり ～作ってあそぼう～	月1回	平林浩さんとブーメラン、花火、編み機等身の回りにあるものを実際に作り、遊んでみることで物のしくみや科学について学んでいる。
俳優・片岡五郎さんの演劇講座	年6回 (下半期)	「西部警察」「水戸黄門」にも何度も出演している俳優の片岡五郎さんと演劇ワークショップ。殺陣の身のこなしや発声のしかたを学んでいる。
ジャンベをたたこう	月1回	西アフリカの太鼓であるジャンベをコンゴ出身のB.B.モフランさんとたたき、楽譜は使わずに体を使って様々なリズムをきざむ。
フォルクローレを演奏しよう	月1回	チャランゴ奏者のTOYO 草薙さんとともに、アンデス地方の民族楽器（チャランゴ・ケーナ・サンポーニャなど）をみんなで合わせて演奏をする。
長岡さんのケーナ講座	月1回	ケーナ奏者の長岡竜介さんに、初級者から上級者までそれぞれのニーズにあわせて、南米のたて笛・ケーナの吹き方を教わる。
ジャズダンス	月1回	ジャズダンススタジオ＜アミューズ＞を主宰している西崎小恵子さんとともに、自分達の好きな曲に合わせてジャズダンスを踊る。
ボイストレーニング	月1回	西崎小恵子さんとともに、大きな声で歌ったり、歌がうまくなるためのボイストレーニングを行ったりしている。
アート	月1回	有北いく子さんとともに、絵を描くだけでなく、木のつるや和紙を使った作品や、カード・カレンダーなどを作っている。
アッコの パクパクパッコン	月1回	自家製の天然酵母パン、各国のお菓子づくりを行なう堤彰子さんと、自分で生地から練って、パンや小麦粉中心のおやつなどを作って食べる。
イタリアンパスタ講座	月1回	元イタリアンシェフの小林英紀さんといろいろなパスタを作る。包丁の持ち方など基本から教えてもらい、料理の楽しさを知る。
歌講座	月1回	川崎を中心に全国で活躍する桜井純恵さんといろいろなジャンルの歌をみんなで歌う。
青空美容室	月1回	恵比寿で美容師をしている尾松陽太さんに、髪の毛を切ってもらったり、アレンジをしてもらったりしながら、プロの技に出会う。
ともに生きる	年6回 (下半期)	開発教育協会の方々、自分達とは異なる文化について知り、学び、そして「ともに生きる」ことについて考えるワークショップ。

単発企画（実施・参加したもの）

実施時期	企画
6月23日	バーチャルバリ島ツアー① ～アースカンパニーとエコな暮らしを考える～
7月12日	バーチャルバリ島ツアー② ～アースカンパニーとエコな暮らしを考える～
7月30日	たいせつな私のこころとからだ ～イヤだと言っていないだよ～
8月31日	ソーパークーピングをしよう
9月7日	防災訓練

9月22日	バーチャルバリ島ツアー③ ～アースカンパニーとエコな暮らしを考える～
10月5日	ソーパークーピングをしよう
10月10日	雑居まつりに参加
11月6日・7日	子ども権利条約フォーラム in かわさき
11月7日	こどもゆめ横丁
12月8日	Xmas リースづくり
12月13日	子どもの権利って、なあに？
12月20日	大そうじ
12月22日	クリスマス会
1月9日	新春イベント
1月14日	たまりば30周年シンポジウム <会場 すくらむ21>
2月21日	ピンクシャツデー
3月19日	たまりばフェスティバル2021 ～color 三原色～ <会場 すくらむ21>
3月25日	春だ！春だ！パーティー（巣立ちの会） <会場 東高根森林公園>

その他の企画

企画	実施回数
おはよう、スタディ！（学習支援）	週2回
きれいにし隊（近隣清掃）	週1回
バースデーパーティー	月1回
畑づくりプロジェクト	通年
着物の着付け、茶道 吉田弘子さん	随時
おやつづくり	随時
藍染め	随時
ものづくり（木工、手芸など） 福峯衆宝さん	随時
東日本大震災のことをみんなで考えよう	毎月11日（平日のみ）

【別紙3】 <ブリュッケ>

①就労に関するワーク（講座・職場体験・見学等）

職場見学（メサ・グランデ）	地域活動支援センター メサ・グランデ訪問：講師 前田施設長
職場見学（ノクチ基地）	株式会社ノクチ基地 訪問 講師：代表取締役 山本氏、村瀬氏
就労支援員によるワーキングトーク	就労支援講座～私が出会った面白い仕事たち～ 講師：ブリュッケ 就労支援担当
その道のプロによるワーキングトーク	～日本バンタム級チャンピオン 防衛線直前企画～ボクサーという仕事の話 講師：古橋岳也氏（新田ボクシングジム）
生き方・歩き方講座	～「声優」という仕事～ 講師：話芸写代表 伊藤達彦氏（ナレーター・講師）、話芸写代表 上月麻未氏（講師・ナレーター）、話芸写 谷合律子氏（ナレーター・声優）

②コミュニケーション・ソーシャルスキルワーク

みんな de ワーク	
井戸端会議	やりたいことやプログラムの内容など毎月の会議で希望を出し合い、決定。
サイコロトーク	参加者が興味を持ちそうなテーマを題材に定期開催。ワークをきっかけに生活のこと、仕事のことなど様々な話題に展開。
今さら聞けない あんなことこんなこと	「節約術」をテーマに実施。メンバーの取り組みを共有する場。
それぞれの「名作」を語る	アニメ、漫画、映画、ゲームなど、一人一人が人生の中で出会った「自分の一番」をみんなの前でプレゼンするワーク。
みんなの音楽	お薦めの音楽をYouTubeの動画とともに紹介するワーク。
みんなのお笑い	お笑い動画をはじめ、笑顔になれる情報を交換し合うワーク。
ゲーム研究会	デジタル、アナログ様々なゲームをみんなで楽しむ時間。どんなゲームをやるかについては井戸端会議で話し合って決定。
Brucke シアター	井戸端会議で上映内容を話し合い、みんなで鑑賞。感想を語り合うワーク。
三瓶さんの知らない世界	それぞれの得意分野を三瓶さん（職員）にレクチャーするワーク。初のオンライン配信プログラムに挑戦。「アメフトの世界」「ベースの世界」について詳しい若者が大いに語った。
ひとり de ワーク	
PC「個」ワーク	個ワークスペースを活用したPC自主練習の時間。インターネット体験、タイピング練習などが人気。
珈琲工房	自家焙煎珈琲を作成。生豆の選別から焙煎まで、自分たちで学びながら実践。カフェ巡りのワークと連動させ、社会活動にもつなげている。

③体験のワーク

誕生日会	誕生月の若者が「食べたいケーキ」を選び、みんなで作ってお祝い
------	--------------------------------

手作りワークショップ	様々なものづくりを体験 10月「ジャックオランタンを作ろう」 12月「ソーパークーピング体験」
スイーツ部	みんなでお菓子作りを体験（レモン羊羹、抹茶ティラミス、水信玄餅、モンブラン、ココアパウンドケーキ、お菓子の家など）
太極拳教室	太極拳歴20年の講師による初心者からの太極拳と気功の体験講座
よかよかお灸カフェ	自分の身体を知り、セルフケアを学ぶ新企画。東洋医学とツボを学びながら自分の不調に気づき、ケアする方法を教わる。お灸体験あり
珈琲焙煎の旅（珈琲の話）	コロナ禍により実現した新企画。緊急事態宣言に伴い、遠距離の外出ができないため、若者と武蔵新城の街をめぐる企画を立案。地域の珈琲焙煎喫茶店めぐりを行った。

④自分発の企画

7月	みなとみらい「アニマルパーク MOFF」
9月	ボードゲーム大会
11月	単独ギター演奏ライブ（予約制居場所）
12月	クリスマス会
1月	「初詣へ行こう」～川崎大師で初詣～（開所・予約制それぞれで実施）
3月	「夢パへ行こう！」～スポーツ・焚火でプチキャンプ
3月	「ズーラシアへ行こう！」～動物とふれあおう～

【別紙4】

日時	方法	参加者	内容
1. 『「食」の支援～食料支援を必要な人たちに届けるために』			
7月5日(月) 15:00~17:00	Zoom	81名	①「食」の支援を行っている団体からの報告 ●フードバンクと生活相談を組み合わせた試み NPO 法人ワンエイド(座間市) 理事長 松本 篤 ●地域の居場所と連動した食料支援の試み 地域のお茶の間研究所さろんどて(茅ヶ崎市) 事務局 早川仁美 ●地域に暮らす外国人への食料支援の試み NPO 法人ABC ジャパン(横浜市鶴見区) 和泉 正明 ②今後の「食」の支援のあり方を考えよう～意見交換～ ●Zoomのブレイクアウトセッション機能を使って、少人数ごとの意見交換と全体での意見交換を行う
2. 『「医」の支援～必要な医療を受けられるために』			
10月6日(水) 15:00~17:00	Zoom	36名	①支援現場からの報告1.「医療から疎外される人たちの現状」 (一社) インクルージョンネットかながわ相談員 湯山佳代 ②支援現場からの報告2.「コロナ禍における外国人医療の危機」 神奈川県勤労者医療生活組合港町診療所 所長 沢田貴志 ③コメントと質疑応答 松尾ゆかり氏(公益財団法人横浜勤労者福祉協会汐田総合病院) 報告に対する質疑応答 ④ブレイクアウトセッション 「医」の支援について、少人数のグループごとの意見交換と、全体での意見交換
3. 『「住」の支援～困窮しても住まいを失わないために』			
1月16日(水) 15:00~17:00	Zoom	52名	①アドバイザーとして座間市福祉部生活援護課林星一課長から、座間市の居住支援協議会と活動内容についてお話しいただく。 ②グループに分かれて、居住に関わる事例をもとにした意見交換(事例検討)
※学習会1:「生活困窮者支援に必要な医療制度を学ぶ」			
9月8日(水) 18:00~20:00	Zoom	37名	10月6日(水)のネットワーク会議(Zoom開催)『「医」の支援～必要な医療を受けられるために』に先立ち、困窮状態にある人たちや、困窮の恐れのある人たちを支えるための医療制度や、医療機関と様々なサービス・機関の連携について学ぶ。 講師:公益財団法人横浜勤労者福祉協会汐田総合病院 松尾ゆかり
※学習会2:「日本の住宅政策と住宅問題」			
12月15日(水) 15:00~17:00	Zoom	57名	支援を必要とする人たちのために、支援する私たち自身が現状や制度を知り、連携を図りながら、より良い居住支援を行えるよう、日本大学の白川泰之教授のお話を伺う。 講師:日本大学文理学部社会福祉学科 教授 白川泰之